

(2) 2009年度後半の評議員会・理事会・研究員会報告

2009年9月9日：臨時評議員会・理事会

公益法人化へ向けて、最初の評議員の選定方法、定款案の変更を議論し、承認されました。理事会ではこれらに加え、日本経済学会との事務所の共用、それに伴う事務局員の増員について議論されました。

2010年2月4日：第2回理事会・研究員会

2010年度の事業計画案および収支予算案、公益法人化手続きの進行状況、新規研究員の加入、2010年度新理事体制等が審議されました。その後、引き続き研究員会が開催され、理事会より提案された事業計画案と収支予算案が承認され、新理事体制は理事会に託されることになりました。委任状等で研究員会開催にご協力された皆様、ありがとうございました。

2010年2月23日：第2回評議員会、第3回理事会

2010年度事業計画、2010年度収支予算、公益法人化申請状況、2009年度事業計画・収支予算の変更、研究員の新規加入、事務所移転について審議、承認されました。

TCER研究員会は過半数の研究員の出席または委任状がないと成立しません。このことを念頭に今後とも、研究員の皆様の積極的な参加をお願いいたします。

(3) 2009年度研究報告・2010年度研究計画および住所確認のお願い

例年通り、電子メールで依頼を行います。4月9日までに、担当理事グレーヴァ香子

(takakofg@econ.keio.ac.jp) まで提出をお願いします。電子メールは代表理事代理から送信されますので、そのメールに直接返信しないで下さい。過去の研究計画、研究報告はTCERウェブサイトにありますので参考になさって下さい。

(4) 2010年度研究助成のお知らせ

2008年度より、研究プロジェクト助成が再開されました。本研究助成制度は、経済学に関わる理論・実証面での萌芽的研究を支援することを目的として設立されたものです。新公益法人への移行に伴い、2008年度まで研究員のみと限ってきました応募資格を2009年度よりオープンにしています。ただし、同一テーマで過去3年以内に助成を受けた方（共同研究者である場合も含む）は応募できません。

2010年度のTCER研究助成応募要領の概要は以下の通りです。

助成金額：一件につき最高40万円

助成対象期間：2010年4月～2011年3月（2011年2月末までに所定の様式に従って研究成果報告書を提出するとともに、研究成果を東京経済研究センターワーキング・ペーパーとしてとりまとめる。）

応募資格：東京経済研究センター研究員および一般の研究者

応募締め切り：2010年5月6日（木）午前9時

応募方法：所定の応募用紙に入力し、Wordファイルをメールに添付して提出

応募先：TCER事務局Eメールアドレス（ tcer@mbs.sphere.ne.jp ）

詳細はTCERのウェブサイトに掲載されます。

研究助成についてのお問い合わせは、代表理事代理柳川(yanagawa@e.u-tokyo.ac.jp)までお願いいたします。

(5) 事務局移転のお知らせ

TCERでは、日本経済学会からの協力依頼を受けて同学会との共同で事務局オフィスを新規に借りることにいたしました。2010年3月10日に現在と同じ山京ビルの703号室に移転いたしました。

2. TCER 研究会

2009年度のTCER研究会は東京大学にて、東京大学マクロワークショップ、および東京大学ミクロワークショップとの共同開催の形で開催されました。

マクロワークショップのウェブサイト：

<http://www.e.u-tokyo.ac.jp/cirje/research/workshops/macro/macro.html>

ミクロワークショップのウェブサイト：

<http://www.e.u-tokyo.ac.jp/cirje/research/workshops/micro/micro.html>

に最新の情報がありません。後期の研究会を掲載いたします。2010年度は一橋大学で開催される予定です。

日時：2009年 9月 1日（火） 午前10:20～12:00

報告者：John Gibson氏(University of Waikato)

論題：“Geo-referenced Household Surveys: Opportunities and Constraints”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2009年 9月 1日（火） 午後4:50～6:30

報告者：Bhasker Dutta氏(University of Warwick)

論題：“Nash Implementation with Partially Honest Individuals” (joint with Arunava Sen)

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2009年 9月 4日（金） 午後4:50～6:30

報告者：John Gibson氏(University of Waikato)

論題：“Pressure Cookers or Pressure Valves: Do Roads Lead to Deforestation in China?”

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 3階 第3教室

日時：2009年 10月 7日（水） 午後4:50～6:30

報告者：Tor Eriksson氏(University of Aarhus)

論題：“Vacancy Duration, Wage Offers and Job Requirements: Pre-Match Data Evidence”

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2009年 10月 8日（木） 午後4:50～6:30

報告者：作道 真理氏(Development Bank of Japan)

論題：“Bagging and Forecasting in Nonlinear Dynamic Models”

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2009年 10月 13日（火） 午後4:50～6:30

報告者：上東 貴志氏(神戸大学)

論題：“Rational Asset Price Bubbles in Small Open Economies”

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2009年 10月 15日（木） 午後4:50～6:30

報告者：Mathias Hoffmann氏(University of Zurich)

論題：“Emerging from the War: Current Accounts, Real Interest Rates and the International Business Cycle, 1885-1939” (joint with Ulrich Woitek)

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2009年 10月 20日（火） 午後4:50～6:30

報告者：Ricard Alonso氏(University of Southern California)

論題：“Organize to Compete” (joint with Wouter Dessein and Niko Matouschek)

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2009年 10月 22日（木） 午後4:50～6:30

報告者：Johan Coleman氏 (Duke University)

論題：“Liquidity and Financial Intermediation” (joint with Ravi Bansal and Christian Lundblad)

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2009年 10月 27日（火） 午後4:50～6:30

報告者：武岡 則男氏(横浜国立大学)

論題：“Uphill Self-Control” (joint with Jawwad Noor)

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2009年 10月 29日（木） 午後4:50～6:30

報告者：Juanyi (Jenny) Xu氏 (Hong Kong University of Science and Technology)

論題：“Oil Currency and the Dollar Standard: A Simple Analytical Model of an International Trade Currency” (joint with Michael B. Devereux and Kang Shi)

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2009年 11月 5日（木） 午後4:50～6:30

報告者：鯉淵 賢氏（千葉商科大学）、佐藤 清隆氏（横浜国立大学）、清水 順子氏（信州大学）
論題：“Determinants of Currency Invoicing in Japanese Exports: A Firm Level Analysis”
場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2009年 11月 10日（火） 午後4:50～6:30

報告者：Zaifu Yang氏（横浜国立大学）

論題：“Constrainedly Fair Job Assignments under Minimum Wages” (joint with T. Andersson and L-G. Svensson)

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2009年 11月 13日（金） 午後3:40～4:50

報告者：Doug-Hyun Ahn氏（Seoul National University）

論題：“Sign switching correlations of cross-country interest rates: Theory and Evidence”

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）2階 小島コンファレンスルーム

日時：2009年 11月 13日（金） 午後4:50～6:00

報告者：澤田 康幸氏（東京大学）

論題：“Did the Financial Crisis in Japan Affect Household Welfare Seriously?” (joint with Kazumitsu Nawata, Masako Ii, and Jeong-Joon Lee)

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）2階 小島コンファレンスルーム

日時：2009年 11月 17日（火） 午後4:50～6:30

報告者：Eugenio Miravete氏（University of Texas at Austin）

論題：“The Doubtful Profitability of Foggy Pricing”

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2009年 11月 24日（火） 午後4:50～6:30

報告者：Bill Sandholm氏（University of Wisconsin）

論題：“Survival of Dominated Strategies under Evolutionary Dynamics”

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2009年 11月 26日（木） 午後4:50～6:30

報告者：Gianluca Violante氏（New York University）

論題：“Frictional Wage Dispersion in Search Models: A Quantitative Assessment” (joint with Andreas Hornstein, Per Krusell and Giovanni L. Violante)

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2009年 12月 1日（火） 午後4:50～6:30

報告者：Federico Etro氏（University of Milan Bicocca）

論題：“Endogenous Market Structure and the Business Cycle”(joint with Andrea Colciago)

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2009年 12月 3日（木） 午後4:50～6:30

報告者：Ayse Imrohoroglu氏(University of Southern California)

論題：“Agricultural Productivity and Growth in Turkey”

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2009年 12月 8日（木） 午後4:50～6:30

報告者：Steven Stern氏(University of Virginia)

論題：“Marriage, Divorce, and Asymmetric Information”

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2009年 12月 10日（木） 午後4:50～6:30

報告者：Ricardo Lagos氏(New York University)

論題：“Liquidity, Asset Prices, and Monetary Policy in an Exchange Economy”

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2009年 12月 15日（火） 午後4:50～6:30

報告者：中島 賢太郎氏(東北大学)

論題：“Agglomeration or Selection? The Case of the Japanese Silk-Reeling Industry, 1909-1916”(joint with Yutaka Arimoto and Tetsuji Okazaki)

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2009年 12月 17日（木） 午後4:50～6:30

報告者：田中 隆一氏(東京工業大学)

論題：“Industry Choice and the Returns to Education”(joint with Katsuya Takii)

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2009年 12月 22日（火） 午後4:50～6:30

報告者：Vijay Krishna氏(Pennsylvania State University)

論題：“Voluntary Voting: Costs and Benefits”

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2010年 1月 18日（月） 午後0:00～1:30

報告者：渡辺 誠氏(Universidad Carlos III)

論題：“Merchants/Middlemen”

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2010年 1月 20日（水） 午後0:00～1:00

報告者：松本 哲人氏(International Monetary Fund)

論題：“International Risk Sharing During the Globalization Era” (join with Bob Flood and Nancy Marion)

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）2階 会議室

日時：2010年 1月 28日（木） 午後0:00～1:30

報告者：Mauro Gallegati氏(Universita Politecnica dele Marche)

論題：“The Asymmetric Effect of Diffusion Processes: Risk Sharing and Contagion”

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2010年 2月 1日（月） 午後0:00～1:30

報告者：Xuan Tam氏(University of Virginia)

論題：“Long-Term Contracts in Unsecured Credit Markets”

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）2階 小島コンファレンスルーム

日時：2010年 2月 2日（火） 午後0:00～1:30

報告者：Yi-Chan Tsai氏(Ohio State University)

論題：“News Shocks and Costly Technology Adoption”

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2010年 2月 2日（火） 午後4:50～6:30

報告者：川越 敏司氏(Future University-Hakodate)

論題：“Level-k Analysis of Experimental Centipede Games” (joint with Hirokazu Takizawa)

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2010年 2月 3日（水） 午後0:00～1:30

報告者：Hwa Ryung Lee氏(University of California, Berkeley)

論題：“Bankruptcy and Low Cost Carrier Expansion in the Airline Industry”

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2010年 2月 4日（木） 午後0:00～1:30

報告者：Seung-Gyu (Andrew) Sim氏(University of Wisconsin-Madison)

論題：“Equilibrium Wage-Tenure Contract with Unobserved Human Capital”

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟（小島ホール）1階 セミナー室

日時：2010年 2月 5日（金） 午後0:00～1:30

報告者：Huixin Bi氏(Indiana University)

論題：“Sovereign Default Risk Premia, Fiscal Limits and Fiscal Policy”

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟(小島ホール) 2階 小島コンファレンスルーム

日時：2010年 2月 9日(火) 午後4:50~6:30

報告者：中林 純氏(筑波大学)

論題：“Small Business Set-asides in Procurement Auctions: An Empirical Analysis”

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟(小島ホール) 1階 セミナー室

日時：2010年 2月 10日(火) 午後0:00~1:10

報告者：John Stachurski氏(Kyoto University)

論題：“Value function iteration using Monte Carlo” (joint with Jenő Pál)

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟(小島ホール) 1階 セミナー室

日時：2010年 2月 12日(金) 午後0:00~1:30

報告者：Somart Chantarat氏(Cornell University)

論題：“The Performance of Index Based Livestock Insurance: Ex Ante Assessment in the Presence of a Poverty Trap”

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟(小島ホール) 1階 セミナー室

日時：2010年 2月 15日(月) 午後0:00~1:30

報告者：Jade Vichyanound氏(Princeton University)

論題：“Intellectual Property Protection and Patterns of Trade”

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟(小島ホール) 1階 セミナー室

日時：2010年 2月 19日(金) 午後3:30~6:30

報告者：北野 泰樹氏(National Graduate Institute for Policy Studies)

論題：“Assessing the Pass-through Effect of U.S. Trade Remedy Investigations: Canadian Softwood Lumber” (joint with Hiroshi Ohashi)

報告者：松村 敏弘氏(東京大学)

論題：“Regional Restriction, Strategic Delegation, and Welfare” (joint with Noriaki Matsushima)

場所：東京大学大学院経済学研究科棟 12階 第1共同研究室

日時：2010年 3月 1日(月) 午前11:00~12:30

報告者：Nicolas Roys氏(Paris School of Economics)

論題：“Estimating Labor Market Rigidities with Heterogeneous Firms”

場所：東京大学大学院経済学研究科学術交流棟(小島ホール) 1階 セミナー室

3 . コンファレンスご案内・報告

(1) 2009 年度 NERO コンファレンス報告

2009年度NEROコンファレンスは2009年9月21日にOECD本部で行われ、TCERからは植田和男氏（東京大学）が参加されました。コンファレンスでは、世界経済金融危機について原因、過去の危機との比較、政策対応の評価、今後などについて一日議論されました。

プログラムは

http://www.oecd.org/document/28/0,3343,en_2649_34117_43450716_1_1_1_1,00.html にあります。

(2) 2009 年度 TCER マクロコンファレンス報告

2009年度TCERマクロコンファレンスは12月22-23日に大阪で開催されました。オーガナイザーは、チャールズ・ユウジ・ホリオカ、櫻川昌哉、塩路悦朗の各氏でした。プログラムは以下です。

11TH MACRO CONFERENCE

Tuesday-Wednesday, December 22-23, 2009

Banpaku Office

Institute of Social and Economic Research

Osaka University

Suita City, Osaka Prefecture, JAPAN

Organizers

Charles Yuji Horioka, Osaka University

Masaya Sakuragawa, Keio University

Etsuro Shioji, Hitotsubashi University

Sponsors

Global Centers of Excellence (GCOE) Program of Osaka University; the Open Research Center of the GSEC Research Institute of Keio University; the Research Center for Price Dynamics of Hitotsubashi University; and the Tokyo Center for Economic Research (TCER)

TUESDAY, DECEMBER 22, 2009

10:30-11:00: Registration

CHAIR: Tsutomu Watanabe, Hitotsubashi University

11:00-12:00 “Job Assignment, Human Capital Acquisition and Moral Hazard in Frictional Labor Markets” (ENGLISH)

Presenter: Norikazu Tawara, Kanto Gakuen University

Discussant: Makoto Watanabe, Universidad Carlos III

13:20-14:20 “Product Switching and Firm Performance in Japan”

Presenter: Tsutomu Miyagawa, Gakushuin University

Co-author: Atsushi Kawakami, Gakushuin University

Discussant: Kenn Ariga, Kyoto University

14:20-15:20 “The Role of Optimal Fiscal Policy in a Currency Union”

Presenter: Eiji Okano, Chiba Keizai University

Discussant: Nao Sudoh, Bank of Japan

CHAIR: Charles Yuji Horioka, Osaka University

15:40-16:40 “The Distributional Effect of Public Insurance Provision: Implications from Universal Health Insurance” (ENGLISH)

Presenter: Minchung Hsu, National Graduate Institute for Policy Studies

Co-author: Junsang Lee, Australian National University

Discussant: Tomoaki Yamada, Meiji University

16:40-17:40 “The (Dis)saving Behavior of the Aged in Japan” (ENGLISH)

Presenter: Charles Yuji Horioka, Osaka University

Discussant: Oleksandr Movshuk, Toyama University

WEDNESDAY, DECEMBER 23, 2009

CHAIR: Charles Yuji Horioka, Osaka University

9:00-10:00 “News-Driven International Business Cycles: Effects of the US News Shock on the Canadian Economy” (ENGLISH)

Presenter: Michiru Sakane, Duke University

Discussant: Keisuke Otsu, Sophia University

CHAIR: Etsuro Shioji, Hitotsubashi University

10:20-11:20 “Pension Benefit and Hours Worked”

Presenter: Kensuke Miyazawa (University of Tokyo)

Discussant: Takashi Oshio (Hitotsubashi University)

11:20-12:20 「財政政策の効果は何故下がったのか？ - ニューケインジアンモデルによる検証 - 」

Presenter: Masataka Eguchi, Keio University

Discussant: Etsuro Shioji, Hitotsubashi University

CHAIR: Masaya Sakuragawa, Keio University

13:40-14:40 “Measuring Energy-Saving Technical Change in Japan”

Presenter: Ichiro Fukunaga, Bank of Japan

Co-author: Mitsuhiro Osada, Bank of Japan

Discussant: Jiro Nemoto, Nagoya University

14:40-15:40 「世界観と利他的経済行動: 行動経済学とマクロ経済学」

Presenter: Masao Ogaki, Keio University

Discussant: Yoshiro Tsutsui, Osaka University

16:00-17:00 "Capital Accumulation, Vintage, Productivity Japanese Experience in 1980-2007"

Presenter: Taiji Hagiwara, Kobe University

Co-author: Yoichi Matsubayashi, Kobe University

Discussant: Tomohiko Inui (Cabinet Office and Nihon University)

(3) 2009 年度 TCER コンファレンス (旧逗子コンファレンス) 報告

2009 年度の TCER コンファレンス (逗子コンファレンス) は、岡崎哲二 (東京大学)・澤田康幸 (東京大学) を組織者として、2010 年 1 月 30 日に東京大学の日本経済国際共同研究センター (CIRJE) で行われました。テーマは「制度・組織と経済発展」で、このテーマに関する開発経済学と経済史の知見を融合することを目的としました。そのため、開発経済学研究者 3 名 (伊藤高弘 - 大阪大学、真野 裕吉 - GRIPS/FASID、高野久紀 - アジア経済研究所) と経済史研究者 2 名 (内藤隆夫 - 北海道大学、大島久幸 - 高千穂大学) がそれぞれ論文を発表され、相互に他分野の研究者がディスカッションを行いました。ディスカッサントとしては、開発経済学から澤田康幸 (東京大学)、戸堂康之 (東京大学)、経済史から神田さやこ (慶応大学)、谷山英祐 (大阪商業大学)、中村尚史 (東京大学) らが参加されました。このテーマでの TCER コンファレンスは 2010 年度も継続して行う予定です。(敬称略)

(4) 2009 年度 TCER ジュニアワークショップ報告

2009 年度の TCER ジュニアワークショップは一橋大学グローバル COE プログラムの Winter Institute of Macroeconomics 2010 と共催で 2010 年 2 月 27-28 日に同大学で行われました。コンファレンスでは昨年 11 月に公募されたマクロ経済学関連論文のうちから採択された 8 本の論文が報告されました。報告者は、大学院生、講師、准教授、教授と広い年齢層にわたりました。幅広い研究者間での議論を活発にするために、泊まり込み形式とし、1 泊 2 日の間に設けられたすべてのセッションへの参加が義務付けられました。また、全論文に討論者を配するとともに、各論文 1 時間半の十分な時間を設けました。

【2月27日・午後セッション】 座長：福田慎一 (東京大学 大学院 経済学研究科)

報告者： 村尾徹士 (一橋大学 大学院 経済学研究科 博士後期課程)

報告論文：「長期フィリップス曲線におけるインフォーマルセクター雇用の役割」

討論者： 佐々木勝 (大阪大学 大学院 経済学研究科)

報告者： 堀井亮 (東北大学 大学院 経済学研究科)

佐々木勝 (大阪大学 大学院 経済学研究科)

報告論文：“Dual poverty trap: Intra- and intergenerational linkages in frictional labor markets”

討論者： 今井亮一 (九州大学 留学生センター)

報告者： 山田知明（明治大学 商学部）

報告論文：“Politically feasible social security reform with a two-tier structure”

討論者： 岡本章（岡山大学 大学院 社会文化科学研究科）

【2月28日・午前セッション】座長：塩路悦郎（一橋大学 大学院 経済学研究科）

報告者： 盛本圭一（大阪大学 大学院 経済学研究科 博士後期課程）

報告論文：“Optimal structure of monetary policy committees”

討論者： 青木浩介（London School of Economics）

報告者： 上田晃三（日本銀行 金融研究所）

報告論文：“Invariant duration policy under the zero lower bound”

討論者： 小林照義（中京大学 経済学部）

報告者： 平口良司（立命館大学 経済学部）

報告論文：“Search, money and capital in an overlapping generations model”

討論者： 齊藤誠（一橋大学 大学院 経済学研究科）

【2月28日・午後セッション】座長：柴田章久（京都大学 経済研究所）

報告者： 荒戸寛樹（一橋大学 経済研究所 GCOE）

中村友哉（京都大学 大学院 経済学研究科 博士後期課程）

報告論文：“Optimal announcement policy in the beauty contest model”

討論者： 工藤教孝（北海道大学 大学院 経済学研究科）

報告者： 堀健夫（一橋大学 大学院 経済学研究科）

二神孝一（大阪大学 大学院 経済学研究科）

報告論文：“A non-unitary discount rate model”

討論者： 三野和雄（京都大学 経済研究所）

報告された論文は、いずれも先端的ジャーナルに公刊可能なものばかりで、それゆえに、批判も含めて活発な議論が交わされました。特に、各参加者の専門分野からの遠近にかかわらず、すべてのセッションに参加するというスタイルを通じて、それぞれの参加者が、さまざまな分野のさまざまな手法に触れることができるとともに、狭い範囲の専門家が参加するコンファレンスでは得られないような新しい視点からの議論が触発されたことは、本コンファレンスの大きな成果でした。

（5）2010年度 NERO コンファレンス予定

2010年度のNEROコンファレンスは、参加各機関の所長クラスを集めて6月25日にパリのOECD本部で開催される予定です。

2009年度もそろそろ終わりとなります。私事になりますが、途中の中断をはさんで8年に渡る理事をついに退任することにいたしました。至らない点多々あったと思いますが、たくさんの歴代理事の皆様と研究員の皆様のご助力でここまでやっていくことができました。心から感謝いたします。TCERもその間に変化してきましたが、これからも日本におけるNBERを目標とした初心を忘れず、国内外の研究者の交流の場および意見発表のための組織として活用されることを期待しています。もちろん私も、一研究員として今後もかかわっていく所存です。最後になりましたが、皆様のご活躍をお祈りいたしております。(グレーヴァ)

Newsletterに関するご意見やご感想は、代表理事 岡崎哲二 okazaki@e.u-tokyo.ac.jp または
総務理事 グレーヴァ香子 takakofg@econ.keio.ac.jp までご連絡下さい。

=====

(財)東京経済研究センター

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-7-10 山京ビル本館 703号室

Tel & Fax 03-3239-2524 Email: tcer@mbs.sphere.ne.jp